



1. 改良土は繰り返し再利用できます！

セメント系の改良材との最も大きな違いは、改良した後の土が再利用できることです。掘削した改良土は、適度な締め固めによって再固化します。

2. 即効性があるので、すぐにトラフィカビリティを確保できます。

含水比低減効果による即効性がある為、すぐにトラフィカビリティが確保できます。従って工期の短縮にもつながり作業効率を高める材料といえるでしょう。

3. 長期の仮置きでも強度が確保できます！

改良土のストックが可能な為、その日に処理しきれなかった改良土を数日に分けて締め固めすることができます。

4. 環境にやさしい土質安定材の決定版！

セメント系で懸念される「六価クロム」等の心配が全く無い「アートライム」は、「安全」で「環境にやさしい」これからの安定材として近年大いに注目されています。

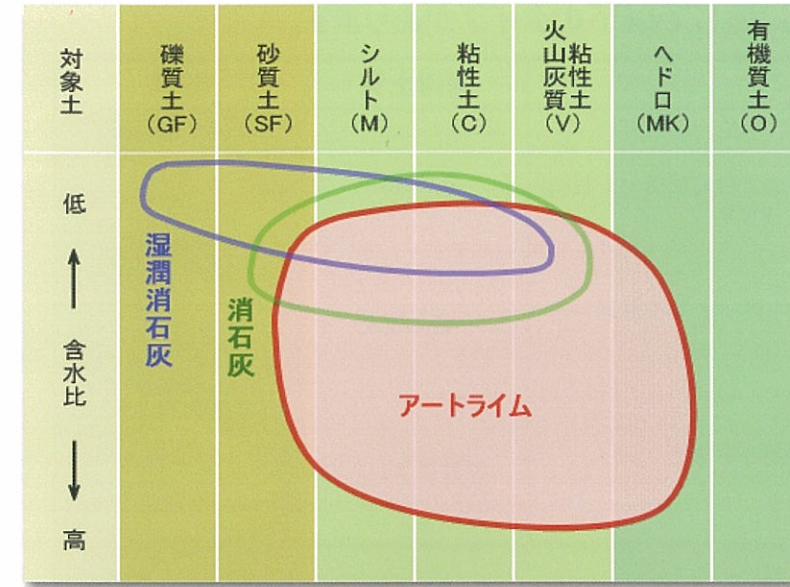
- ※ アートライム「AL-100」は、六価クロムの溶出試験は不要です。
- ※ 「六価クロム」は主に職業性の経気道曝露により、癌・クロム潰瘍・鼻中隔穿孔・感作性皮膚炎などを引き起こすことが知られている。

5. 粘性土の改良に最適の効果を発揮します！

粘りのある赤土やシルト、火山灰質粘性土等で使用されると特に強い効果を発揮します。安定材の添加量がセメント系よりも少量で済む為、結果的にコストダウンにつながります。

6. 仮設道路、盛土工に最適！

仮設道路・盛土築堤工事において、改良後養生期間なしで工事車両等の走行が可能です。セメント系の改良では十分な養生期間を設けなければクラックが発生する恐れがあり、修復には再度固化材の添加を必要とします。



<アートライムの適用土質>

アートライムを添加した改良土は4~5日後でも盛土・転圧などの施工が可能で、改良効果もほとんど低下しません！

項目	アートライム	セメント系	消石灰系
含水比低下	◎	△	△
物性改良	◎	○	◎
短期強度増加	○	◎	△
長期強度増加	◎	△	◎
有機質土質処理	○	◎	△

<アートライムに最適な用途>

- 道路建設工事**
 - 路体、路床の改良
 - 仮設道路のトラフィカビリティ改良
- 河川・ため池**
 - 浚渫土の改良
 - 堤防盛土への再利用
- 造成工事**
 - 盛土地盤の利用
 - 調整地盛土提の安定処理
 - 法面の安定処理
- 改良土プラント**
 - 建設発生土の再利用
- 汚染土壌の浄化**
 - VOC（揮発性有機物）の浄化

消化吸水反応 各種の化学反応で土質を飛躍的に改善します！

土に含まれる水分と反応して対象土の含水比を低下させます。この反応によって、高含水土の施工性の向上や軟弱地盤の改良などに利用されます。

イオン交換反応

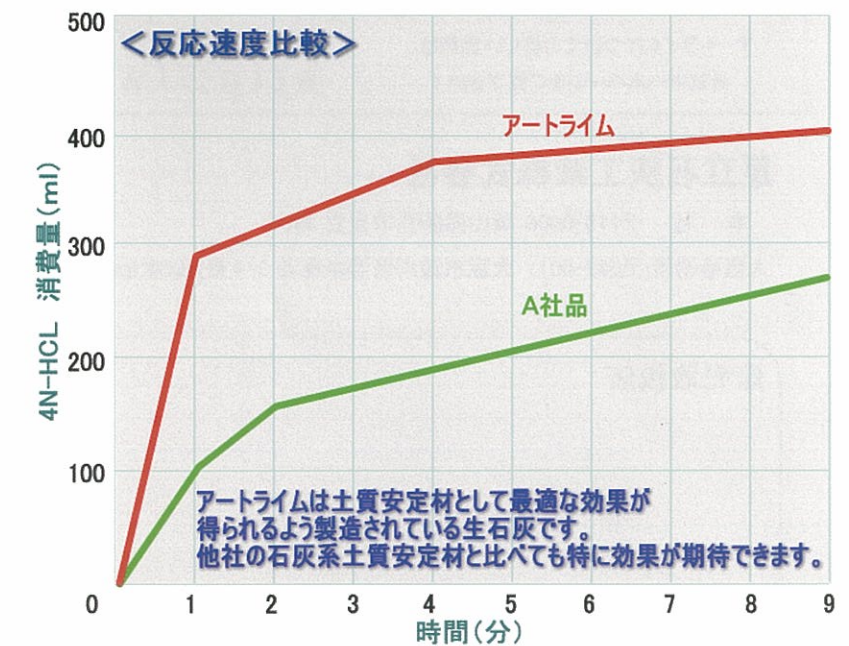
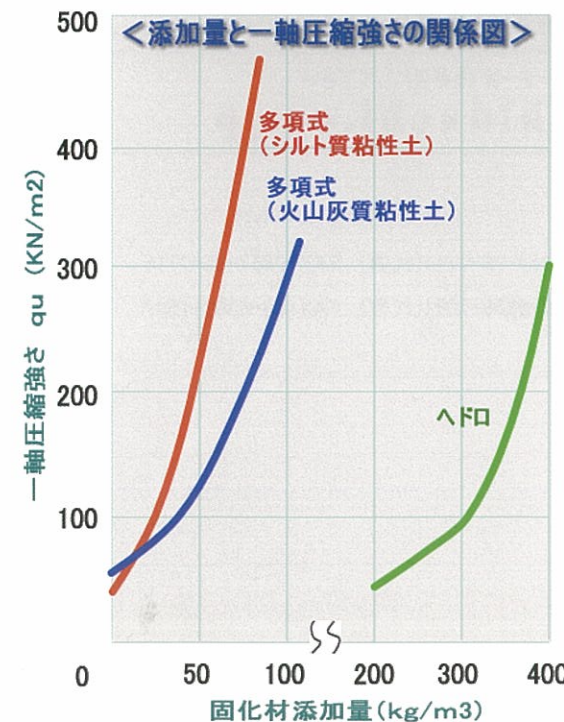
消化吸水反応後にカルシウムイオンと土粒子の表面イオン間でのイオン交換反応により土粒子が物理化学的に凝集、団粒化する作用。

ポソラン反応

土中の粘土鉱物との反応による土質安定処理効果により、非常に早い時期から結晶鉱物を生成しながら硬化を始め、長い間に強固で安定した結晶鉱物へと変化し、長期的な耐久性・安定性をもたらします。

炭酸化反応

石灰が空気中の炭酸ガスや土中水の炭酸イオンなどと反応して炭酸カルシウムを形成します。ポソラン反応で生成した結晶鉱物と炭酸カルシウムがさらに反応して長期的に安定性を増していきます。



アートライムは土質安定材として最適な効果が得られるよう製造されている生石灰です。他社の石灰系土質安定材と比べても特に効果が期待できます。